慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済名著解題 : ウイリアム・スタンリイ・ジェヴォンズ著 石炭問題
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1939
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.33, No.4 (1939. 4) ,p.537(111)- 545(119)
JaLC DOI	10.14991/001.19390401-0111
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19390401-0111

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

援助は、三億磅に及ぶ對支投資を含む既得權益の確保を念願とする以外に、支那と云ふ廣大な半植民地的領域を自國の資本主義的活動の勢力範圍内に包含せんとする意欲を明白に示すものである。即ちそれは大英ブロック擴大工作の一の具體的表現であり、此の點に於て、資本主義的ブロック經濟の特質が充分に窺はれる。此の意味に於て日支事變の進展或は歐洲に於ける戰爭の危機の切迫に應じ、ブロック組織の强化は誠に緊要であり、又其の内部にける原料自給性の確保は、經濟的のみならず、政治的、軍事的にも、意義は極めて大である。かるが故に英國は又海軍力、海運力の擴充を以て、其の弱點たる屬領の散在性を克服せんと努める。とまれ現狀に關する限り、その豐富な工業原料の自給力確保を目標に、英國の凡ゆる努力は活潑に續けられると見るべきであらう。

經濟名著解題

ウイリアム・スタンリイ・ジェヴォンズ著『石炭問題』

高橋誠一郎

一

ウイリアム・スタンリイ・ジェヴォンズの名は經濟學史上、主として純理に對する其の貢獻に由つて記憶せられてゐる。洵に彼れ以前に於ける效用分析の散漫なる斷片を、包括的なる價値、交換及び分配の理論に組成せるものはジェヴォンズであつた。然しながら、彼れは純理以外の領域に於いても多くの貴重なる勞作を殘してゐる。彼れは既に一千八百六十三年四月十六日、其の最初の重要なる著作 A Serious Fall in the Value of Gold ascertained, and its Social Effects set forth, with two Diagrams. を出版し、諸物價の上に及ぼす金の供給增加の影響を探求し、著しく指數の研究を進めたのであるが、而も彼れが初めて其の名聲を博するに至つたのは一千八百六十五年四月に出版せられた The Coal Question; an inquiry concerning the progress of the nation, and the probable exhaustion of our coal-mines. に於いてゞあつた。目下我が國に於いては、炭價の昂騰に由つて各種貨物の生產費增加を來し、物價騰貴の重要なる一因を構成するに至り、北支炭坑の開發に依つて石炭の供給を補足せんとしつゝあるの時、七十五年の昔、當時の英國經濟學界の天才によつて論述せられたる『石炭問題』に就いて一言するも亦、必ずしも徒爲で

はあるまい。

二

ジェヴォンズが初めて石炭問題に注意を拂つたのは一千八百六十一年若しくは二年のことであつた。研究は一千八百六十四年一月に着手せられた。彼れは主として同年六、七月の頃、大英博物館圖書館に於いて孜々として其の研究を進めた。本著は同年基督降誕祭以前に脫稿せられ、十二月二十八日の頃に出版者マクミランに送付せられ、翌六十五年一月六日に出版の承諾を與へられ、而して同年四月二十四日より三十日に至る週内に發兌せられた。(Letters & Journal of W. Stanley Jevons, ed. by his wife, 1886, p. 203.)。

ジェヴォンズは先づ、或る程度迄彼れの結論を豫示せるジョン・ウイリアムス(John Williams)(其の著 Natural History of the Mineral Kingdom. は一千七百八十九年に出版せられてゐる)以來の諸家の意見を擧示し、而して又、エドワード・ハル(Edward Hull)によつて行はれたる英國内に存在する炭田の總含有量の見積を引用し、是れを以つて其の立論の地質學的基礎資料となしてゐる。次いで彼れは斯問題の地質學的方面を考察する。恐らく採掘の深度に關しては何等正確なる自然的限界も存することがないであらうが、而も甚しく深き炭坑に於ける石炭の取扱及び抽出の困難增加は著しく其の價格を騰貴せしめなければならぬ。漸次的涸渴が表明せられ、而して其の痛歎す可き結果が生ぜしめらる可きは這般の價格騰貴である。近年に於いては何等重要なる騰貴も存することがなかつたやうであるが、而も、最深の炭坑の或る者より抽出せらるゝ石炭に對して要求せらるゝ高價は早晩普通の石炭に對してすら要求せられざるを得ざる高價を豫示する。(The Coal Question, 2nd ed., 1866, pp. 7-8.)。

ジェヴォンズを以つて觀れば、英國人が現在全世界に亙つて指導的勢力を有するとしたならば、そは何等一般的なる知識的優越に由るものではなくして、一定の有利なる精神的性質と其の特有なる物質的資源との聯合に基くものである。前世紀以内に至る迄は、英國人が其の國内に於いて實行せる殆んど總べての技術は悉く其の起原を大陸に有するものであつて、最近に至る迄、英國は諸技術に於いて未熟であり劣等であつた。而して英國人が最近に於いて寄與せる殆んど總べての技術及び發見は其の石炭の低廉と優良とから生じたものである。(ibid., p. 86.)。

ジェヴォンズは石炭の經濟的使用が其の消費量を減少すると想像するを以つて全然觀念の混亂であると看做す。其の反對が眞である。原則として新たなる經濟的方法は消費の增加を來さしむ可きである。(ibid., p. 123.)。經濟は石炭の使用をして更らに有利ならしめ、斯くて又、石炭に對する現在の需要は增加する。そは過去に於いて左樣であつた、そは又、將來に於いて然る可きである。(ibid., p. 124.)。科學の不斷の進歩に由つて、石炭の或る代用物、——恰も蒸汽が動物の勞働を凌駕するが如くに、遙かに蒸汽を凌駕しつゝある或る動力の泉源が發見せらるゝ時があるであらうと云ふ見解が行はれてゐる。(ibid., p. 138.)。而も、著者を以つて觀れば、發見の不斷の傾向が石炭をして愈々益々有效なる動因たらしむるに拘らず、英國の石炭が使ひ果された時、更らに有力なる或る一定の代用物が出現す可き見込は存することがない。總べての經驗は、水が蒸汽の可能なる商的代用物ではなくして、却つて蒸汽が其の最初に使用せられた時からして水力の代用物であつた事實を指示する。(ibid., pp. 153-154.)。吾人にして若し機械勞働の水力黃金時代を有す可きであるならば、そは猶ほ力の究竟泉源として蒸汽を使用して居らなければならぬ。(ibid., p. 160.)。石油は近年最も廣大なる交易の實體と爲り、米國の發明家によつて船舶用蒸汽機關の汽罐に使用せんことをすら提唱せられた。そは疑ひもなく幾多の目的に對しては石炭に優るものであり、而して

ウイリアム・スタンリー・ジェヴォンズ
四十二歳の肖像

之れに代るを得るものである。而も、然らば、石油は地熱又は人爲的の熱によつて石炭より蒸溜せられたる其の精に非ずして何ぞ。其の自然的供給は石炭の其れよりも遙かに限定せられて居り、且つ不確實である。其の價格は既に一噸約十五磅である。而して人爲的供給は惟り大なる費用を以つて或る種の石炭を蒸溜するによつてのみ取得せらるゝことが出來る。然らば、石油の使用を擴張するは石炭の消費を促進する新たなる方法に過ぎない。(ibid., p. 164.)。洵に現在に於ける我が炭價騰貴の原因の一に人造石油工業勃興の存することが思ひ合はされる。

三

著者は玆に其の筆を本問題の全然別樣なる方面に進め、先づ人口の自然的原理を說明する。國民は全體として、必然石炭の消費を惹起する蒸汽機關及び其の他の發明が使用せらるゝに至つた時から急速に其の數を增加した。凡そ一千八百二十年に至る迄は、農業及び工業人口は略々均等に增加した。然しながら、其の頃に至つて前者は過剩と爲り、大なる貧困を惹起したのであるが、而も急速不斷の增加に對して何等かの餘地を與へたものは惟り英國の都邑並びに產炭及び產鐵地方である。彼れ曰く、吾人の生存は最早吾人の穀物の生產高に依存することがないと。かの重大なる意義を有する穀法の廢止は英國人を穀物から解放して石炭に依賴せしめた。そは少くとも、石炭が終に此の國の重要產物として承認せらるゝに至つた時期を劃するものである——そは、單に石炭使用の發達の別名たる工業的利害關係の優越を標示するものである。(ibid., p. 173.)。當分は、我が低廉なる石炭の供給と、其の使用上に於ける我が熟練と、他の廣大なる地域との我が通商の自由とは吾人をして此の島々の賜られた農業地域から獨立せしめ、而して吾人をマルサス學說の適用範圍から脫却せしめた。吾人は其の豐度が猶ほ一見した所では之れに對する吾人の需要に連れて減少することのない富の泉源に依賴して次第に富裕と爲り、人口夥多と爲りつゝある

のである」。(ibid., p. 177.)。

彼れは更らに其の論歩を進めて言ふ、又、吾人が直接石炭と關係ある産業に親しむこと愈々大なれば、人口增加の割合は益々急速且つ不斷であると。洵に英國人口の殆んどあらゆる部分の增加は明かに移住によつて抑制せられたが、而も、這般の移住が國内に於ける窮迫に基くものでないことは過去十年乃至十五年間に於ける著しく增加せる結婚の頻度に徴して明白である。而して、這般の移住は一時英國民の單なる數に於いての發達を抑制するも、而も、そは其の隔絶を著しく增進し、更らに大なる將來の人口增加を誘致するに資する。著者は次いで其の注意を纖、綿、木材、船舶及び其の他英國産業の大なる諸部門によつて示されたる急速且つ不斷の進歩率に向ける。而して彼れは英國の商工業が顯然たる限界なくして、算術級數に於いてゞはなく幾何級數に於いて、單なる加法によつてゞはなく乘法によつて、而して常に高率にして又、屢々不斷の遞昇率によつて發達せしめらるゝことを明かにする。(ibid., p. 217.)。

而して、ジェヴォンズは、英國産業の進歩が此の當時に至る迄、概して抑止せらるゝことなきを立證する。斯くて英國産業の主要なる部門が進歩する限りは、其の石炭の消費が等しく幾何級數に於いて增加しなければならぬことが明かである。彼れは當時の英國に於ける石炭消費の增加率を調査する。而して彼れは、英國に於ける石炭の消費が是れ迄に等しき割合に於いて一百十年間倍加し續けるとしたならば、斯くの如き間に於いて消費せらるゝ石炭の全量は一〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸なる可きことを推定する。英國が現在の進歩を續くること一世紀有餘に及んだならば、同國の炭坑は四千呎の深度、換言すれば、同國に於ける現在の最深炭坑よりも更らに一千五百呎の深さ迄採掘し盡さる可きである。英國の石炭の總べてが平均凡そ二千呎の深さから掘り出さるゝに至つたならば、同國の製造業者は二倍に騰貴せる燃料の價格と鬪はなければならぬやうに爲るであらう。平均の深度が四千呎に增加するに至つたならば、其の結果は燃料費に於ける更らに大なる而も未知の騰貴でなければならぬ。然しながら、ジェヴォンズは斷じて、斯くの如き數字からして、英國の炭田が一世紀有餘の内に四千呎の深さ迄採掘せらる可きことを主張しつゝあるものではない。(ibid., p. 241.)。彼れは單に、英國が長く其の現在の消費量增加の割合を持續し得ないこと、英國が斷じて想像せられたる消費のより大なる高に進み得ざることを論結するに過ぎない。而も、斯くの如きは單に、英國の進歩に對する抑制が現時より一世紀以内に於いて明かに感知せらるゝに至らなければならぬこと、燃料費が、恐らくは一生涯中に、同國の商業上及び工業上の覇權に取つて有害なる度合迄騰貴せざるを得ざることを意味するに止まる。而して英國現在の多幸なる進歩的狀態が限定せられたる期間の物であると云ふ結論は蓋し避け得ざる所である。(ibid., p. 242.)。

英國の石炭が同國内に於いて使用し盡された場合には、英國人は恰も彼れ等が夥しく多數の他の原料を海外より輸入するが如くに之れを輸入に俟つことを得可きであると云ふ意見が、是れ迄、多數の出鱈目な思想家等によつて提議せられた。而も、ジェヴォンズを以つて觀れば、石炭の輸出は英國貿易の巨大にして且つ漸次發展しつゝある部門ではあるが、斯貿易の轉倒と將來に於ける石炭の還流とは商業上に於ける不可能事であり荒唐無稽事である。(ibid., pp. 246-247.)。然らば、何故に英國は現在幾百萬噸の石炭を輸出し、而して地球上總べての地方に之れを配給することを得て、而も猶ほ其の喪はれたる富を將來の進歩せる船舶によつて呼び還すことを期待し得ざるかを疑問とする者があるであらう。(ibid., p. 247.)。英國の石炭が世界のあらゆる重要なる地方に於いて購入せられ、消費せらるゝは幾分ニューカッスル及びウェールズの汽罐用石炭の比類なく良質なることゝ、そが低廉に船積せられ得

るの事實とに基くも、而もそは主として石炭が脚荷、即ち塡補物として運搬せられ、又低率なる戻り運賃に依るの事實に基くのである。(ibid., p. 253.)。英國と雖も、自然に逆ひ、又あらゆる物質的條件の缺乏裡に在つて其の產業を推進し得ると想像するは洵に傲慢であり痴愚であらう。英國の今日迄の成功は自己の氣力に依ると少くも等しき程度に於いて、自然に負ふ所のものである。(ibid., p. 278.)。

英國は現在に於ける進歩の程度を長く持續することを得ない。其の增加しつゝある繁榮に對する最初の抑制は其の人口をして過剩ならしめなければならぬ。移住は之れを緩和し、又貿易の增加を喚起するに依つて其の進歩を維持するを得可きであらう。然しながら、曾くにして英國は全然新たなる諸慣習を採用して貧困に沈むか、然らざれば同國靑年の止むことなき年々の退去を賭なければならぬ。著者は更らに、其の窮極の結果は合衆國に於いて勞働を夥多ならしめ、是れが爲めに英國の鐵工業がペンシルヴェニアの比類なき鐵及び石炭の資源によつて下値を附せらるゝに至る可きことを指摘する。粗鐵工業が英國最初の損失たる可きことは恐らくは誤りなき所であらうが、而も同國製造業の幾許が其の後を追ふ可きかは言明するを得ざる所である。燃料の使用節約は何等英國をして困難を免るゝの道を示すものではない。制限的法制は產業發達の自然的進路を害することを得ようが、而も之れを修理することを得ない。(ibid., p. 11.)。

ジェヴォンズは聲を大にして言ふ、他の國々が大抵、絶ゆることのない年々の收穫の所得によつて存立するに反し、英國は何等の年利をも生ずることなく却つて一度び光と熱と力とに變じたならば、永遠に空間中に入る資本に依賴すること益々多きを加へつゝあるものであると。(ibid., p. 332.)。

四

『石炭問題』の成功は華々しかつた。時の名藏相グラッドストンはジェヴォンズに書を寄せて、此の書が國債を縮少せんとする彼れの願望を強めたることを認め、(一千八百六十六年三月二十四日附其の兄ハーバート宛ジェヴォンズの書翰。Letters and Journal, op. cit., p. 220.)、ジョン・スチュアート・ミルは議會に於ける演說に於いて本書を擧げて、後世子孫の爲めに今に於いて公債縮少の爲めに更らに大なる努力を行ふ可き義務を說いた。グラッドストンは又、議會に於いて本書に就いて云々し、彼れの財政策を構成するに際し或る程度まで其の結論を採用せんとするの意あるが如くに見えた。『タイムス』紙はグラッドストンを誤らしむるものとして其の著者を非難した。(一千八百六十六年五月九日附其の姉アン・ルーシィ宛書翰。ibid., p. 223.)。而して特にジェヴォンズによつて行はれたる主張を研究するが爲めに勅命委員會は設置せられた。應用經濟學者としての彼れの地位は十分に承認せらるゝに至つた。

本書は今や古典と爲つた。其の後に起つた事實に由つて此の書中に含有せられてゐる豫言中の或るものは確證せられ、他のものは其の虛僞を立證せられた。ジェヴォンズが本書を草するに際して報告を利用することの出來た最後の年、一千八百六十三年には英國の炭坑から採掘せられた石炭の總高は八六、一九二、二一五噸であつた。是れよりして恰も二十年を經過せる一千八百八十三年には其の高は一六三、七三七、三二七噸と爲つた。(ibid., p. 204)。此の問題に關して更らに十分なる統計的資料に據つて更らに徹底せる著述を行はんとするの擧が後人によつて企圖せられた。其の一人にジェヴォンズの子ヘンリィ・スタンリィ・ジェヴォンズ(H. Stanley Jevons)がある。而も本書は猶ほ石炭問題を論ずるが爲めに統計的報告を使用せる最も丹念なる企圖として、又、實際社會に最も大なる波紋を生ぜしめたる著述として永く經濟學史上に其の名を留む可きものである。